

志の公認会計士

久野康成の

「私なら、こうする！」

第42回

非常識な実践経営アドバイス



## Question

女性の先輩から、服装がカジュアル過ぎると注意を受けました。会社には特にドレスコードはありませんが……

(東京都 25歳 女性)

## Answer

学生時代とは異なつて社会人は第一印象が重要です

高校の中にはピアスをしようが金髪に染めようが、何でも自由というところがあります。それでいて進学校なら、特に問題はないということでしょうか。ビジネスの世界でも、実力があ

って、ちゃんと結果を出せば良いという考え方もあります。確かに、これも一理あります。

服装は相手の第一印象に対して大きな影響を与えます。学生時代は、同じ人と同じ教室で接する時間が長いので、第一印象はそれほど重要ではないかもしれませんが、しかし社会人になる

と、一度しか会えない多くの人と接することになり、第一印象が悪ければ、ビジネス上は、大きな損失です。

企業によっては、制服を採用しているところもあります。例えば、邦銀の女性社員、ファストフードやファミリールレストランでは制服があります。これは、顧客に対して同じ品質の高いサービスをイメージさせるのには有効です。このケースでは、個性より統一感のあるサービスのほう

が重要なのです。

私は32歳で独立したので、意識的に落ち着いて見られるよう服装を心掛けました。実年齢より10歳上に見られることを目指しました。これは今も変わりません。現在44歳ですが、かなり老けて見えるように演出していません。男性は若い時は落ち着いて見られるように、本当に年を取った時は、若々しく演出したほうが良いと思います。

例えば剣道や空手では、ファ

リスト・コンタクトで相手の実

力が分かります。ビジネスでは、名刺交換するまでの時間で、相手の実力が分かるのです。この短い時間を大切にしないではいけません。つまり、服装は、単に自分が何を着たいかではなく、相手にどんな印象を与えたいかを考える必要があります。

また、女性の場合は男性と決定的な違いがあります。これは、ビジネスの世界が依然、男性社会になっていることから発生するものです。

1998年に大手人材派遣会社で、約9万人分の登録者名簿が流出した事件がありました。

その名簿には、何と容姿がABCと3ランクに分けて評価されていました。もちろん、このような容姿のランキングはプライバシーを侵害するものであり違法です。しかし、派遣会社の顧客は、受付、秘書、営業など職種に対して、スキルや経験という「表ニーズ」だけでなく容姿という「裏ニーズ」を求めるのも現実で

### 女性を強調し過ぎると、 仕事上では後々大変に……

女性が綺麗に見えることは、この裏ニーズからすれば、当然重要ですが、また、容姿端麗な女性のほうがより多くチャンスが巡ってくるのも現実だと思います。しかし、このような事實は、女性の立場からすれば、自ら性差別の存在を認めるようなものであり、口にはしません。また、男性も、このような事實を認識していても、決して口にはしません。知っていて知らぬふりをするのです。

ただし、綺麗に着飾ることが本当に得策かと言うと、必ずしもそうでないケースもあります。私は当社の女性社員に対しては、プロとしての身なりを心掛けるように指示しています。それは、女性らしさが強く出過ぎると、「裏ニーズ」だけにヒットしてしまうことがあるからです。

当社の顧客である中堅企業の

経営者がクラブに飲みに行けば、3万〜5万円くらいの相場でしょう。女性コンサルタントも女性らしさが強く出てしまつと、ホステス代わりの飲み友達にされてしまいます。裏ニーズの比較対象は、飲み屋の相場です。表ニーズのコンサルタントの相場が裏ニーズに引きずられやすくなることすら発生します。

先程、綺麗な女性ほど多くのチャンスが得られると言いましたが、これは良いことばかりではありません。綺麗な女性ほど、周りがちやほやし甘やかせるため困難に立ち向かう力が弱くなる傾向があります。私の経験では、努力量も少ない人が多くいるように思います。20代の間はそれでも良いかもしれませんが、30代以降も仕事を続けていこうと思えば、

相当、意識して

勉強しない限り、容姿端麗のトップにハマってしまいます。強みは同時に弱みにもなり得ることなのです。

このような意見を言うことは、ビジネスの世界ではタブー視されていることです。教えてくれる人は多くありません。その中で、女性の先輩からのアドバイスは、傾聴に値することだと思います。彼女が本当に伝えたいことは何か、もう少し考えてみてはいかがですか。

(このコーナーでは、経営に関するよろず相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております)

#### 【プロフィール】

久野康成(くの・やすなり)

公認会計士。人材開発・東京コンサルティングファーム会長兼 CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウス)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。